大洲病院ニュース
OZU CITY HOSPITAL NEWS

発行：市立大洲病院
編集：広報委員会
〒795－8501
大洲市西大洲甲570番地
TEL0893-24-2151
FAX0893-24-0036

年初のご挨拶

大洲市病院事業管理者
市立大洲病院
院長　谷口嘉康

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様には健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より、市立大洲病院の運営に対しまして、ご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

４年近く続いたコロナ禍も令和５年５月８日より季節性インフルエンザと同等の「５類相当」へ引き下げられ、感染症対策は一定の落ち着きをみせました。しかしながら、診療材料費や光熱水費の高騰などにより、病院経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いております。

その中で当院は、地域の中核病院として、良質な医療を提供し地域医療に貢献するという使命を果たすために、救急医療の提供、地域包括ケアシステムの充実、チーム医療や市内外の医療機関との連携促進など地域医療の充実に取り組んで参りました。

今後、公立病院は「経営の効率化」、「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」などに加え、「機能分化・連携強化」、「新興感染症の感染拡大時に備えた平時からの取組」、「医師の働き方改革への対応」など、より多くの課題を抱えることになります。

当院では、これら課題を解決するため、愛媛県により策定される愛媛県地域医療構想や医療計画等の内容を踏まえ、「市立大洲病院経営強化プラン」を策定中でございます。策定後は経営強化プランを確実に実行し、地域に必要な医療提供体制を確かなものにすることで、市民の皆様の安全・安心と健康増進に貢献していきたいと考えております。

医療を取り巻く情勢は今後も益々厳しいものになると思われますが、引き続き地域医療の向上に医療スタッフを始め職員が一丸となって地域の皆様が安心して受診できる環境づくりに一層努力する所存でございます。市民の皆様並びに関係各位のご協力とご理解をよろしくお願い申し上げます。

市立大洲病院の理念

患者様に信頼される良質で安全・安心な医療を提供し、地域社会に貢献します。

〈第40号の主な内容〉

●年初のご挨拶 …… １Ｐ
●大腸がんの早期発見を～早期発見・治療が大切です … ２Ｐ

市立大洲病院公式ホームページ　http://www.ozuch.jp/

大腸がんの早期発見を ～早期発見・治療が大切です～

内科医長　永松　賢祐

日本における大腸がんは近年増加傾向にあり、2021年人口動態統計によると部位別がん死亡数は男性で第２位、女性で第１位となっています。

大腸がんは早期に発見できた場合、高い確率で治癒が可能ですが、無症状のケースがほとんどです。発症リスクは30代後半から高まり、男女ともに80歳頃まで右肩上りに上昇していきます。厚生労働省は40歳から大腸がん検診の受診を推奨していて、早期発見・治療を行うことが大切です。

大腸がん検診では、まず一次検診として便潜血検査を行います。検査で陽性と判定された場合、二次検診として大腸内視鏡検査を行います。しかし、この二次検診の受診率は約70％との報告もあり、せっかく検診を受け、大腸がんの可能性が示唆されても、早期発見できる機会を自ら逃がしている方も少なくありません。

二次検診を受診されない理由は様々ですが、大腸内視鏡検査時の苦痛が大きな壁となっているのではないでしょうか。

当院では大腸内視鏡検査の際に検査中の負担軽減のため、鎮静剤を用いて眠った状態で検査を受けることが可能です。

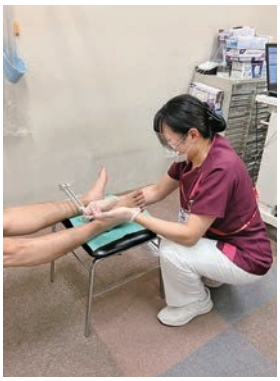
<大洲病院で大腸内視鏡検査を希望される方へ>

大腸がんの早期発見・治療を行うため、大腸内視鏡検査をご希望の方などいらっしゃいましたら、お気軽にご相談ください。【電話番号 24－2151】

糖尿病透析予防チーム会の活動
シリーズ② フットケア・透析予防

足にしびれや違和感など気になる症状はありませんか？その症状、もしかしたら糖尿病神経障害かも知れません。

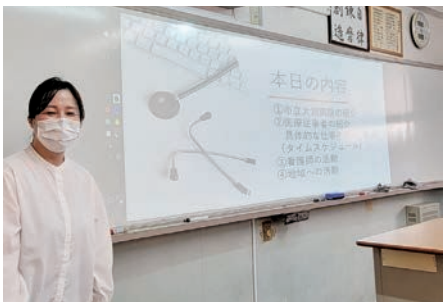
糖尿病神経障害がある方は、足に怪我や火傷をしても、感覚が鈍いためすぐに発見できないことがあります。また、その傷がきっかけで潰瘍や壊疽を引き起こすこともあります。



当院では、足の病変発生及び進行予防のために患者さんと共に取り組んでいます。

糖尿病の患者さんで足に気になる症状がある方は、ご相談ください。

大洲高校へ出張授業に行ってきました

将来の医療従事者を目指す大洲高校１年生に対して、当院における具体的な仕事の内容について紹介しました。各職種の業務実態とやりがいについて説明するとともに、働くことの大切さも伝えることができました。

将来地域で共に働き、活躍できる日を楽しみにしています。